

風

と

あがり

VOL.8

特集・創立25周年記念



静岡県設備設計事務所協会

◆◆◆◆ 協会25年史座談会 ◆◆◆◆

歴史に学び未来を開く

●出席者

元3代会長…山下 高明氏

元5代会長…塩沢 千尋氏

現8代会長…志賀 正紀氏

司会…広報委員長 上杉 勇



司会：本日は大変ご多忙中の折、会長を務められたOBのお2人に御出席いただき、有難うございます。さっそくですが、昭和40年に当協会が発足し、今年で25周年を迎えました。今日の地歩を占めるまでには、大変ご苦勞もあった事と思われませんが、いかがでしょう。25年を振り返りまして、特に草創期の思い出を、お伺いしたいと思います。まずは当初8社で発足した訳ですが、業界として設備工事や、設計に対する時代評価は、いかがでしょうか。初代副会長でした塩沢様から、お伺いしたいと思います。

塩沢：まずは協会設立前のことから話しますと、私と初代会長の森坂氏が、事務所を開いたのが昭和30年8月でした。当時地方都市では設備設計専門事務所はほとんどなかったのではないかと思います。静岡市呉服町の防火帯の建設の時期で、東京の建築事務所の設備担当者から、設備設計事業界の話を聞くことができたり、又、県住宅供給公社関係の設計等の話があたりで、建築事務所からもすすめられて、開業したわけです。それから協会設立までの10年間で、開業された人がでてきたので、協会をつくったわけですが、まだまだ認められた地位ではなかったですね。

志賀：協会設立当時、私は建築事務所に勤めていたのですが、その設備部を独立させて別会社を作ろうという会社の計画のもとに準備を進めていた時期でした。しかし、個々の準備がはかどらない状態だったので、個人で独立してしまったのが、昭和41年10月の事でした。協会には43年に入会したわけですが、44年頃から県住宅課より、県営住宅の屋外設計の分離発注をいただくようになったと記憶しています。

司会：設立当初、設備設計を業務として何社ぐらい有り又設立の際には、何社ぐらいに呼掛を、されたのでしょうか。

塩沢：わかっている範囲の8社全員で、情報交換等の必要を感じて設立したわけです。

司会：設立された昭和40年は構造不況深刻化による危機に直面し、この年の秋には戦後初の「赤字国債発行」決定され厳しい出発と思いますが、これが逆に組織団体の必要性に移行されたのですか。

山下：私は昭和40年12月に事務所を開いたのですが、塩沢さん達とはちがい2年位は仕事も薄く、軌道にのりはじめた43年に、志賀さんと同じに入会したのです。

塩沢：当時仕事は多かったけれど、経済的には“やっとこさ”という実情だったので、その辺のことを何とかしなければ、ということ、地位の確立ということをめざした、ということ。

志賀：私も悪い時期に開設したな、と思いました。

司会：設立された当時の業界、県市町村等の行政当局は、設備設計に対する考え方は、いかがでしたか。

塩沢：設備設計というものに対する認識はほとんどなかったですね。県の営繕課・住宅課で少し認めていただいていたという程度です。



塩沢 千尋氏

山下：意識が芽生えはじめて来たという程度でしょう。

志賀：建物が木造から鉄筋コンクリートに変わってきた時期で、設備設計の必要性が生じてきましたね。東京オリンピック、新幹線開通、東名開通といった時代背景でした。

司会：発足して4年目には、会員が倍増してますが、相当な働き掛をしましたか。又各事務所が地位の向上を図る意識が芽生えたのでしょうか。

塩沢：学校建設、住宅公団の仕事やボーリング場等の建設が盛んな時で、又空調設備がとりいれられてきて、48年のオイルショックまでは、非常に仕事が多く、それで事務所も増えてきました。

志賀：レジャー産業が急増している時期でした。ボーリング場やゴルフ場などですね。協会としては、設計料の料率について、塩沢さんが熱心に研究されて、いろいろ説明されていたのを憶えています。やっと協会としての活動が軌道にのりはじめたという時期であり、未入会の人達に呼びかけをして、説明会を開いたりもしました。

司会：前の質問と関連しますが昭和48年から50年代後半までの時期は協会の組織拡大がされず、会員も横バイでしたが、なにか背景がありましたか、組織充実には会員増が必要と思われますが、また会員の質の問題でしょうか。

塩沢：オイルショック以降、仕事量が厳しくなり、会員の増強よりも、質の向上をしていく方向だったですね。

山下：私が会長の時期でしたが、質の向上について種々検討していた頃です。昭和54年には協会の結びつきを求めて「協会便り」も発行しました。

志賀：オイルショックで苦しい時代だったですからね。自分の事で精一杯だっのではないのでしょうか。

司会：協会は25年を迎え、節目として来年は法人化設立と動いておりますが、歴史に学ぶと言うのは、苦労や失敗に学ぶと言うことで記録の表に出し難い事例もあるでしょうが、歴史を尊ばない者は滅んでいくと思いますので、その辺のお話をお伺いしたいです。

志賀：賛助会員にも協会活動に多く参加していただき、設備業界全体のまとまりをはかっていきたいと思います。又どうしても建築設備士の資格は実用的なものにしたいですね。

塩沢：量に追われて質の向上をおこたることのないよう、量・質共に豊かにしていかないといけないのではないのでしょうか。

山下：設計に信念（理念）をもって、そして裏づけをしっかりとつくること。そのためには基礎資料の集積をしっかりとしていかななくてはならないでしょう。

司会：現在では会員46社に増えて会員の年代も30代から60代と幅が大きく又考え方の多様化の中で組織を維持する案として先輩よりアドバイスがありましたらお聞かせ願います。

塩沢：協会のあり方、委員会活動の方法、理事会の進め方の形をきちっと決めていくことが必要ではないだろうか。委員会を定期的に関き、会員が意見を出しやすい雰囲気づくりをし、それを吸い上げて理事会で決定し、必ず結果を報告する、という基本的なことが大事ですね。

山下：連帯感を高め、内部の結束を強くし、外部へのPRをしていく事が大事です。県内は地域的にも広いし、年代層も広くなると、意志の疎通も難しくなるので、皆が一体感をもつ様にすることが大事でしょう。例えばアンケートを定期的に行うなど……。会長と理事会の役割が大事になりますね。

志賀：理事会など協会の動きを会員に随時知らしていく必要があるでしょう。大事なことは、コミュニケーションです。4、5年前から委員会活動も活発になってきています。今後さらに充実させていかなければと考えています。と同時に「風とあかり」とは別に、回数を多く発行できる「協会便り」等の方法も考えてみたいと思います。



志賀 正紀氏

司会：昭和の時代は生産性社会で「もの」の時代で、平成からは完全に情報化社会「場」の時代に変貌しましたが、25年を振り返る中でとくに設備技術の変化は一段とハイレベルに推移しましたが、この技術革新について感想を、お伺いします。

塩沢：多くの優秀な賛助会員があるわけですから、賛助会員の協力を強く求めて、“一社に片寄らないで”最新の技術資料・データーを集め、協会で比較検討し選択し、それを会員に提供していくことなどが必要となるでしょうね。

山下：若い人達も多く入会してきているので、その人たちの柔軟な頭脳も大いに使ってもらって、どんどん技術革進していかないと、今の時代は取り残されていくでしょう。



山下 高明氏

志賀：見る、聞く、考える、このことが強く要求される時代です。協会としても、技術講習会、技術研修会など、内容の充実したものを考えていきたい。例えば、先月行った柏崎刈羽原子力発電所見学会の様な。

司会：最後に25年の歩みと今後の抱負、課題について志賀会長より展望を、また先輩より協会への贈る言葉をお願い致します。

志賀：一人ひとりが、「自分達の協会は自分達でつくっていくんだ。」という気持ちをもって、会員が参加して魅力ある協会にしていきたいと考えています。

山下：会員の事業の安定と向上、生活の安定ということにもつながるわけですが、その点を会長として考えながら、協会運営をしていってほしいですね。

塩沢：景気の先行きに心配なこともあり、こういう時期にこそ協会の本領が発揮できるわけで、又保険のことなど福利厚生面も考えてほしいですね。

司会：長い時間ありがとうございました。先輩お二人の、ますますのご活躍と、健康を祈って終わりたいと思います。ありがとうございます。

山下 高明氏

- 昭和2年11月11日生れ。
- 趣味はヘラブナ釣りで、娘さんと二人暮らし。

塩沢 千尋氏

- 大正13年8月1日生れ。
- 趣味はゴルフと絵を画くことで、奥さんと二人暮らし。